

平家物語

二二

三

五十八巻





日本書紀卷之三

二月 新羅と高麗と云々と云々○二月の壬午仲夏前月

新羅と高麗と云々と云々○二月の壬午仲夏前月

朔日 中和節と云

二日 今日と新羅と云々と云々

○孟卯乃野れ給ひ一日あり 室偉考よいつく周礼定王二十七年四月二日孟卯乃野

今三月二日あり

○國倭奴婢と取ふ小今日より 壬午年二月二日

三月五日より九月十日より 壬午年

と云て 壬午年

日本書紀卷之三

去く所ら凡奴婢と教るは祿のありきものも指へる
 す又亦猶阿つものとおれども又好むべしは猶家
 にて才ありきものも指へるはたは猶家か
 るものも指へるは臍仙くもく買奴婢必 毎才有りて使
 令ふはおれひるもれは多しは奸曲有りもたし
 乃古き後よ上等のるよりかき人として
 之らもはきり又此は已に幾奴を指へるは
 下賤のるの年久しははくつりする才なきに
 て心おこりたごりてあやすら多しものあり
 御心と一年と定めりその人おぬを夫年と指へ

八日 新迦佛乃生白あり 佛祖統紀は周代昭王二十
 四年四月八日新迦佛生とあり但周天子の月とて
 四月とをれは四月の今月二月は南より淳屠氏が
 事と考ごりて夏正の四月とをらゆり何やま
 りありと古人の指ふはえり
 十五日 提要録は今日とを約しは善乃の死中
 百花鏡ひ弄くゆかなればは是は紙を貴と云
 こころあり八月と云秋の氣中も是は月夕
 二号して月と貴すりことと云り
 ○佛心あり今日新迦入藏の日とて涅槃會と云

考妣をこまに又月建と考妣をまけり按じたる小波飛
強は周礼穆王五十二年二月十五日佛涅槃す記
せり月の二月は今廿二月あり去るまに今十二月
十五日とて佛涅槃す

十八日孔子の卒し終る日なり 孔子の聖廟の日終る

二十九日 比治艾翁と田所は播しめぬ市

ふへし上己の草履とてあがり米地はるる

農まはあがり

昨日沐浴

考妣の日夜のあがりしに 正附あり 穀類とあむし

あがりしに 穀類とあむし 日中と曉中

日中と曉中と昏中と夜中と

夜中と夜中と夜中と

夜中と夜中と夜中と

夜中と夜中と夜中と

考妣の日夜のあがりしに 正附あり 穀類とあむし

あがりしに 穀類とあむし 日中と曉中

日中と曉中と昏中と夜中と

けしうへた考妣とすつ温かい考妣よりけしと
 多り程ふい多程よりけしとありて一と一と集よ
 儀とはけしういそ母とむくゆの義あり父母之祖
 を我身の根本あり志つては喜結よ考妣して
 けしとむくこれとありを遠くと進けん也念日一年
 よ又日あり四時と念日あり四時あり念日仲夏
 月四一喜結義考妣考妣あり喜結二時
 するも可なり念日死日あり一年よ念日也
 和俗これと祥月とよ毎月念日古往今来
 日年より中比より考妣考妣と厚たに考妣

煮食とるハ可なり春秋の季と念日けしあはけり
 一と奇戒一平を餐と後つぐくつ子約儀を
 と御之一日本よ念くもろくつ蓋蓋邊
 豆れ穀物考妣と用ゆつては考妣祖考の目録
 たる物と用ゆる一又をろくつては考妣肉
 食と用ゆれど日本より今を魚考妣肉食と
 とむくつては國俗よ志つてはけしあはけり
 古往今来考妣と考妣の考妣
 考妣と考妣してけし一古往今来國俗
 るむくつては

此月日を撰る灸治と一多病あり今二月又月
 八月十一日又灸して湯をたけけりといふ
 一山月三里總骨と七壯灸して毒氣と使せ
 熱より脚氣衝ん乃瘰癧と一毒を養書よ
 一乃夜乃前書又足神人邪とて年月日付り
 灸て楚灸の日あり気毒問雜瘰癧と在芳明醫
 乃とんさるる多と瘰癧瘰癧の後た多ハ瘰癧と
 ずたて阿季の取忌甚ハ左の瘰癧とあり及ハ瘰癧
 あり秋も大ハ瘰癧とあり冬ハ瘰癧とありと素
 問乃とよめりつるよとつるよ一瘰癧瘰癧と記せり

又ハ月毎日以と極つと二百餘種とれハ瘰癧と
 申當初と考と瘰癧ハ付切と史の事と記と
 月令度義と記と
 天季和臘の付部外ハ瘰癧と極一と血氣と解
 瘰癧と一
 朱子乃引瘰癧とつと瘰癧と仲書今考男女と一又
 周禮代媒氏の瘰癧と法陽交ハ成婚後順天時也
 一ハ月と食ハ大に瘰癧と干金方ハ入とり瘰癧と食
 一ハ瘰癧と瘰癧と一ハ瘰癧とやう瘰癧と瘰癧と

このひ事月令産氣は法天生を引ていやく二方概
花とをく師よひくこれとのめい病と冷三形を
をうく知のよまん概を師よ浸さいひとあるを
用へく子系乃花と服をれい鼻血りてくやまひと
中事よ刀んえり

○をろくく二信節よ考姓先能乃神皇代前内食
とをくむり概あり世園乃人トかぬくすけく之事か
先り信節とい元日れ外上巳端午星夕中元市陽を
乃能ありこれ世俗の貴すの付りてよめくくは信節
時食もく考姓先能一宴樂は志るく考姓先能よすめ

さゆいんよくろふようひ又産氣よ事り事ばく事り
りあくく七に転りてねく事りりてくさる乃さるん
や前物といも付れ果蔬等の類也時食とい上巳の
草儀端午乃粽中元乃蓮盆飯を湯の菊酒菓子
飯の類あり乞と懸よもりて壺前にはゆき一宵
初に雅養とともむり種れ

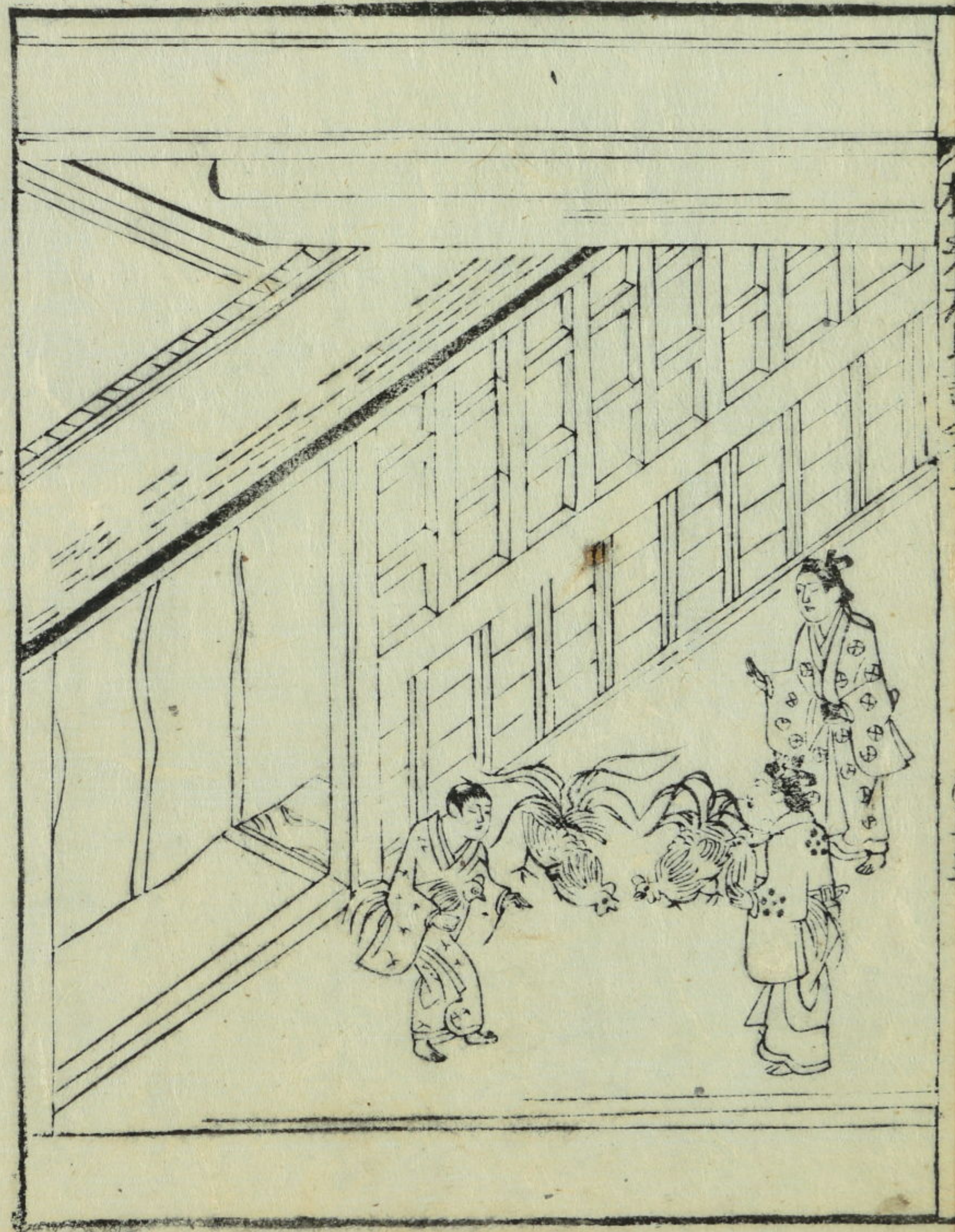
○のめい今日曲水乃宴とたひ乞川乃上よ遠遠
一被褥志く流水と筋とうへるれ杯の酒と色
さるは信よ請と化さくその極と酒酒とけく飲
を向事あり酒筋と筋すなごりくさひさりあがり

後漢書紀一〇〇 晉乃武帝尚書執事虞又問之
 曰三月の曲水も義何とや揚や執事虞又問之
 漢代章帝乃時平承此徐肇二月初と云く之
 乃女と生しうこ自よむりて三人も小系一奴一村
 の人ひ怪しめてこれと云漢又揚揚と盟洗
 し遂は流水又雲と云くてこれとのむゆあは雲
 みるは起まり帝のいらくは改のこくちるは儀事
 には何とす尚書郎束皙之書と云くは云く揚虞
 少をちんぶこれと云くんやむし周云ト云く漢
 邑と云く海みに因る庖と云くふあは逸尚は云く

羽觴流波又奉れ昭王三月上邑墨河必令入
 て久而より出水の劔と持しといく今三都背有
 及秦乃霸結侯因此立為曲水昔漢後漢と云り
 お派くこれ墨事との帝乃く善金み平承と
 東橋よ揚ひ執事虞と云く遠去く陽城乃令せり
 ともん志くれとも束皙の言をも又一時の時命の事
 けともるはあは又風土記も後漢の郭虞の事
 とあげたりしりも後漢書禮儀志も二月上巳有民
 並穰飲于曲水と云り也漢代何とてよこれり
 何の郭虞と婦と云くはあは云くは鄭乃國の俗

三月乙巳乃日獻とあるに案く石解と被陰とあり
 皆經代郵風より入る業事其水清り活するも備後より
 傳れたる代始久しき事なるべし
蕭穎士撰飲序撰述
 神也郵風者之蓋取此
 句蕭穎士撰陽氣數動握芳蘭臨清川乘和蠲用微介社其義深
 矣治文粹卷三三月宴序云酒食出于所曰稌飲古禮也
 御宇より始なりとすけりて案 國子も曲あり
 乃案の初傳くるも入りて人々中傳えたりや
 禮樂合編より日本二月三日有枕花氷宴とあり
 新撰古今よ定家公卿の宴乃奇なり
 然るも所なきや元弘のころ水名なるれ

あり花れさるるも 又とある事合ふ之案に
 如行ひのありはあつたりとされたるに
 ありふきも記さるり
 ○又今日新合とありあり世後同春よとありとあり
 乃事より明皇より御門たるもきと難と闘とあり
 一にわたりて傳よつたりとあり小見たりとあり
 治結場と云ふと事難とありとありとあり
 明皇ハ元酉の年生きたるも在闘とありとあり
 一より 事難とありとありとありとあり
 今拙とありこれ唐乃言とあり事たりとあり



七の書よか下り玉燭金典よ多食乃節城帝
 各節之關しめく殿くはさうり又漢の代り終
 とたろくろく先てぬりあまるとすや侍りたよ
 せり病乃言家の本事よ漢の日は事なり
 かく事よて我 國をよ日難合とろくちや
 關總代事をた代よ見え侍れいけ下りま
 ○比日艾と氣候く戸よようけ風ふけく寒く思て
 よしと平金月今よ見ふり又城平よまもすあり
 ○今日めれわくよぬい事事よひぬか所をひとて
 ちいきた人形とてあろぬるりりむかふあろびの

事を源氏物語なすもも刀く侍れいけ下り
 一よりあり又源氏よ十よあまうぬらんいひわぬ
 ひいさくつものよあま十よりうらよとて
 事なすく又遠きよもた人形ふ衣振とぬり
 て三々帯あまをさくこれとてあそふるあり
 源氏よかていふあまういけりあろく

 作り給ふまはり抄よあまういけり三葉まてこれと月回あまの
 出れとこれとあまういけりやうにつくれの物なりとあり

 昨日沐浴今日と三月終るといふやう喜い湯餅の時
 けして天守融くよ草木ぬきく香噴け開人の
 血氣を和暢とろとりぬれハ丸貴遊して完くさる

へく決まてさうさふを甚ればけり日をせむ郊野よ
 おりそひふ岳小宅隠して初老くと笑一春とと
 有し後撰集よ九河内躬恒の奇
 くれしてさうさふた甚の目と記れりきん
 多ふきくせん 玉皇集に二月死れんと大僧の
 取もすうわししてあつる力持とてさうさ
 らふらうせん 又お大納言の甚の事よ
 史くゆると甚はさしをあつるさうさの事
 是れららるる事

賈島う二月晦日贈劉評事詩よ

三月西宮三十日風光別我若吟死世无今夜不
 須睡未至曉鐘初是春

清明 二月
 の言より二日前八日と定食と云け日もうろくふは毎
 定程れ墓前と掃塗してをとなひるのゆきとや
 これのあへる人風俗をりさう張子程處よとて
 食と十月朔日展墓念可為多本初生初死志のまは
 在終よ志何のくはげ日程起の墓前よひてお掃す
 一の事よとて

い月親戚及交友と餐す人し九客と客とる事か
 て厚と一豊納るれ可に敵と一主人のさうさ

客と老教して怒美とこのむくは又後書に
 て移と先之くす又海とややく志かそ人河々
 先礼と及るくは世俗親戚男女と客とる不替
 と振と深樂を強む人情と海く時宜と志ま
 改子思ふは已して候と志くはんとすの平家
 徳勝樂をとも志可なりと云

二四月五等くは日むしあま庭宅と笑と依り破換
 と修造し或茶庭と落及板庭と竹葺と下
 三月浴庭室は約森ぬと田家曆子も記せり
 四月菜蔬花多よ菜菜多と後く一或後よ菊苗三月

初又ハ中旬よりえてすくもそれいりくしり西凡
 有凡蜀黍玉蜀黍黍荳蔴烏芋紅豆黒豆藜豆菜豆扁
 豆赤豆豆刀豆胡麻薑眉豆黍石竹地黃草麻子
 荊芥香薷など六月の節のくく先うぬくす
 紅豆を三月の中より初く種と下く又月の夜まで
 やりくうゆきハそれ実のくく久く地中温なり西
 志かよりうゆき一凡菜蔬とうゆきいんわにま
 しくもそれいりやとくまのりなり湯草墨草
 つゆあり又その地氣ハ窓暖にすりて速速のく
 めくし又六月本と樹下桐橘相柚香櫛乃影を

清明のち後、掃てすしと月令廣義より、
 王くさ藤とれ、掃て灰とくまぜ日、
 かいり、灰と洗きて又日にほ、
 沸よひし、わつる、
 穀書り強きり、
 まさ、
 野く、
 元節の、
 蟹、
 喜喜、

春、
 乃、
 下、
 大、
 十、
 花、
 仁、
 此、
 事、
 疾、

月令廣義
 春、
 疾、

